

寄居町の概要

寄居町は、埼玉県の北西部、都心から70 km圏に位置し、荒川の清流が秩父の山間から関東平野に流れ出す扇状地の要に発達した町である。山地、丘陵、台地、低地と多様な地形に恵まれ、荒川が町域の中央を屈曲しながら東流している。町の総面積は64.17 km²、県立長瀬玉淀自然公園や秩父リゾート地域整備構想の特定地域に指定されている。また、昭和60年に環境庁（現在の環境省）から「風布川・^{ふうつがわ}日本水」が「全国名水百選」に認定され、平成7年には国土庁（現在の国土交通省）から町全域が「水の郷」に、林野庁から「日本水の森」が「水源の森百選」に認定されるなど、水と緑に代表される豊かな自然環境に恵まれている。

昭和30年2月に町村合併促進法に基づき寄居町、折原村、鉢形村、男衾村、用土村の1町4か村が合併して現在の寄居町となった。平成17年12月1日現在、人口38,049人、世帯数13,493世帯で近年は人口がほぼ横ばい、世帯数が微増傾向で推移している。

交通は、JR八高線、秩父鉄道、東武東上線の3つの鉄道があり、合わせて8駅が開業しているが、ターミナル駅となる「寄居」駅の利用者が圧倒的に多い。寄居駅から池袋駅までは東武東上線(急行)で約1時間30分かかる。道路は、国道140号が東西に、国道254号が南北に走り、町の中心付近で交差している。平成13年5月に開通した国道140号皆野寄居バイパスによって秩父方面へのアクセスが充実した。

商業は、寄居駅南口から国道254号にかけての旧市街地に中小のスーパーや日用小売店舗等が、国道140号、254号沿いには郊外型レストラン、大型小売店舗等が立地している。また、平成17年4月には国道254号沿いに「ベイシアスーパーセンター寄居北店」がオープンし、町の活性化につながっている。

現在、寄居町では第4次総合振興計画基本構想の将来像「水と緑・人とのハーモニー寄居」を掲げ、安心と豊かさを実感できるまちづくりを目指している。保健福祉総合センターを拠点とした生活支援体制の整備を行い、平成16年には介護老人保健施設「やまざくら」が開設されたほか、「鉢形城公園」の開園、「鉢形城歴史館・埋蔵文化財センター」も開館した。平成18年2月には「男衾配水場」が完成し、4月からの給水開始で町全体の安定した給水ネットワークを目指す。今後は、中心市街地の整備として「寄居駅南地区沿道区画整理型街路事業」や「男衾駅周辺地区都市計画事業」、「桜沢駅周辺地区都市計画事業」を推進していくほか、山の辺の遊休農地を利用した花木果樹生産パーク構想や優良企業の誘致を図るための彩の国資源循環工場の推進を行っていく。

平成17年12月6日作成